

“鮮度一番！”

No.232

～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

- 1～2 / 第23回三条女性会議総会 記念講演より 第3回
- 2 / ひとことコラム
- 3 / 運営委員会で話し合われたこと
- 4 / 講演感想 編集後記

第23回三条女性会議総会（H30.5.26） 記念講演会より 第3回

家庭教育の大切さについて

～教育現場と少年センターをとおして見えてきた子どもの今～

講師 梅津玲子

(新潟県立大学非常勤講師/新潟県社会教育委員等)

昨年10月の終わりに、文科省が一昨年のいじめ・不登校数が激増し、過去最多であると発表しています。小さな事も見逃さなくなったからとコメントしていましたが、その中で、びっくりしたのが、小学校1・2年生の暴力が急増しているということ。自分の感情をコントロールできず、手が出る場合が多いのだと。まさしく、感じる心が育っていないのです。このままだと低年齢化している暴力はどんどん進んでいくような気がします。

今、青年や少年の犯罪も多いです。凶悪化しています。陰湿です。子どもたちは道徳としての知識は皆一応もっています。やっちゃいけないことも知識ではわかっています。でも、子ども同士での惨殺事件、また、高校生が友人に手をかけ切り刻んだ、子どもが親を殺害した事件など、心が痛みますね。

要するに知識だけでは人は動きません。勉強だけできればいいというのではないのです。若い人たちの問題は、むしろ、感情的な部分の問題なのだと思います。感じる力がとても未熟なのです。だから、人への思いやりの情けが湧かないのです。そして、未熟な感情が自分本位の短絡的な行動に結びついてしまっています。「ムカつくから人を殺す」「カッターイからサボる」「楽しければハメをはずしてでも盛り上がる」、ある市の成人式の様子をニュースでご覧になれば納得ですよ。

要するに未熟な感情であるうえに、それをコントロールする能力も低い。だから、「キれる」。こんな子どもにしてしまう原因は育てる周囲の大人に責任があると思います。相手の心をくみとれるようになるには、まず、自分の感情を客観的にコントロールできるようになることが大前提であるのですが、それができない子どもが年々増えてきています。

みなさんは非認知能力、社会情動的スキルともいうのですが、聞いたことありますか？ IQ(知能)などで数値化される認知能力とは違って、目に見えにくい「学びに向かう力や姿勢」のことで、目標

や意欲、興味・関心をもち、仲間と協調して取り組む力や忍耐力・ねばり強さや計画性などのことですが、ご存知でしょうか。IQ(知能)よりもむしろ、非認知能力が社会的な成功に結びつきやすく、乳幼児期から小学校低学年までにいいかわりをして、知的な教育よりも情動的なスキル、非認知能力を高める重要性が叫ばれてくるようになりました。自分の感情をコントロールできる子に育てているでしょうか。我慢しなければならないところでしっかりと我慢できているでしょうか。

私は、人より早く字を教えたり、塾に通ったりの勉強より、家庭の中で、もっともっと子どもたちに感じる心を育ててやってほしいと思っています。人間が生きていくうえで大事なことをきちんと怒らないで教えていくとか、お手伝いをたくさんさせるとか、言葉や生活習慣、コミュニケーションなど、生きていく上で必要なライフスキルを身に付ける援助をしてやってほしいと思います。くりかえしくりかえしです。

子どもには発達段階があり、それにおける成長の特徴をふまえて、適切な支援が必要です。小学校の1年生に哲学論を述べてもわかるはずがありませんよね。例えば、低学年では、大人が「いけない」と言うことは、してはならないといったように、大人の言うことを守る中で、善悪について理解と判断ができるようになります。この時期は言語能力や認識力も高まり、自然への関心が増える時期です。高学年では、物事がある程度、対象化して認識することができるようになります。発達の個人差も顕著になります。自己肯定感を持ち始める時期ですが、反面、劣等感を持ちやすくなる時期です。集団活動に主体的に関与したりしますが、ギャングエイジと言われる中学年では閉鎖的な仲間集団ができ、付和雷同的な行動も見られるようになります。人間関係について模索するこの時期、自他の尊重の意識や他者への思いやりの心などを育てる必要があります。

家庭教育は子どもの自立のために行うべきものです。いつまでも何でも親の言いなりではなく、子どもの心を大事にして育てて上げてほしいと思います。

子どもは大人をただ小さくしたものではありません。心も体も未熟なわけですから、教えてあげなければわからないのです。それも一回言ってわかるものではないので、くりかえし教えてあげてほしいと思います。何が大事かと言えば、コミュニケーションでしょう。「してみせて 言って聞かせて させてみて ほめてやらねば 人はうごかじ」です。

先ほど、感じる心が未熟だから、人への思いやりの情けが湧かないと言いましたが、みなさん、「思いやり」って大事だと思っていられませんか。ほとんどの親は思いやりのある子に育てたいと言いますが、では、具体的にどうすれば、思いやりの心が育まれるのでしょうか？ 中学年・高学年くらいから思いやりの心はしっかりと育ててやらねばなりません。いかがですか？

・・・ひとことコラム・・・

～久しぶりにFMラジオ収録に参加して～

F.M

日中はしつこい残暑が居すわっていますが、朝晩は心地良い風が吹くようになりました。とはいえ気温 40 度は、夜勤明けの身体にはキツかったです。今日の満月は、やさしい光を放っていました。旧暦の盆の月と聞いて納得です。

今日は、久しぶりにFMラジオの収録のお誘いを受け参加しました。昨夜は宿題に自分なりの解答を考えましたが、私は求められている責務を果たせたのか？自信ありません。実は、車の中でFMラジオから流れてくる田辺さんの声に涙が止まらなくなったことがありました。あの時、その時、寄り添い、受け止め、時に厳しく優しくほほ笑んでくれた田辺さん。私が、田辺さんに出会った頃の田辺さんの年令と、今の私の年令は近いと思いますが、全然近づいていません。よし、ガンバローと思った一日でした。

運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成30年9月5日(水) (AM9:30~11:30)

場 所 三条市男女共同参画センター

次回の運営委員会は、10月3日(水曜日)9時30分から男女共同参画センターです。どなたでもおいでください。

1. 「ワイワイ女性ひろば」について

燕三条エフエム放送(ラヂオは〜と76,8MHz)ワイワイ女性ひろば

●本放送 毎週木曜日 11:00~11:30 ●再放送 毎週水曜日 19:30~20:00

9月のテーマ 「人生100年時代」~いつでも夢を~

- ①人生100年時代は幸せか
- ②女の一生・私のロールモデル
- ③衰えを自覚し改善へ
- ④まちに出よう!夢を語ろう!

メンバー:宮嶋ケイ、村田扶美枝、野崎ミチコ、田辺とも子

「人生100年時代」は喜ばしいことですか?平均寿命がまた延びたというニュースを耳にし、めでたいと、先行き不安の両方が行き来します。また、年齢をかさねるごとに、新鮮なワクワク感がうすれていくのは仕方のないことかもしれませんが、いくつになっても自分なりの目標を持ち、高齢者だって堂々と夢を語りましょうと盛り上がりました。収録の参加が初めての宮嶋さん(86歳)は「朝、目覚めたら、今日一日の予定をたててみる。それにしたがって動くこと。夜、一日がそれなりに過ごせたことに満足して終える」と。日常には幸せがいっぱいころがっています。“ささやか”それこそが最高!今年度の担当はこれが最期になる放送を是非お聴きください。また来年4月に、身体も番組内要も少し筋肉質になってお会いしたいと思います。ありがとうございました。(田辺)

2. 又エック参加報告

8月31日(金)三条市のバスに乗って、(独)国立女性教育会館で開かれた「男女共同参画推進フォーラム」へ当会から4名が参加しました。

午前は、それぞれが選んだワークショップへ参加し、午後は、お目あての国谷裕子(くにやひろこ)さんの特別講演「すべての男女が活躍でき、働きやすく暮らしやすい社会を創る」を拝聴しました。

前半は、男女平等の意識改革が進んでいない現状に、「黄金の3割」として、物事的意思決定の場に女性が3割をしめる必要性を強調されました。

中盤は、SDGs(Sustainable Development Goals)(持続可能な開発目標)を中心に展開され、終盤、「アメリカで女性の役員が18%と低いのは、「見えない壁」があることに気づいた。

1つは、男性の失敗はすぐに忘れるが、女性の失敗は、長く組織に記憶されること。

もう1つは、女性の得意なコラボレーション力やコミュニケーション力をリーダーの定義に加えて広げることが重要である。」と予定時間を超過しても熱く語られました。

国谷さんの美しいお姿とお話に、早朝から往復6時間をかけてきたかいがあったと心から思いました。

次回号から、随時参加報告を載せていきますので楽しみに!

※SDGs(Sustainable Development Goals)は、世界のリーダーが2015年9月の国連サミットで採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に盛り込まれた17分野の目標です。

【総会記念講演】

「家庭教育の大切さについて」

長く教育現場にいた経験から家庭教育が大切であるとの梅津先生の指摘はおおいに納得できました。子育てがとうの昔に終わって私たちには、孫育ての参考となりました。お話を聞いて、私自身が決していい親ではなかったとの反省がしきりです。ただ今の若いお母さんたちの子育て環境とは違って、多くの人たちとの関わりがあって助けられていたと思います。子育ては家庭には大きな役割があるが、孤育てではなく社会全体で育てるものであり、広い視野で見守りたいとみなさんも思っているでしょう。子どもたちに触れる機会にはそうした意識をもちたい。また、成長過程で生活体験を家庭の内外で多く経験することが、豊かな感受性を育み、生きる力をつける。そして人との関わりも学ぶ。梅津先生の言われる「非認知能力（社会情動的スキル）」を伸ばすために、家庭や社会が様々な手段を駆使して、笑顔あふれる子ども時代を支えたいと改めて思う。

私は子どものいじめや不登校を経験したが、まず親が信頼され子どもが悩みや不安を打ち明けられること、家が安らぎの空間であることが重要なことであり、そのどちらも不十分であった。小学校時代の担任が息子の顔を見て、「いいか死ぬんじゃないぞ」と言われたときに、子どもはそこまで追い詰められていたのだと、私の危機意識が薄かったと気が付いた。SNS が子どもたちの世界に当たり前のよう存在し、たこつぼの中のような関係の中で悩んだり、いじめにつながったりすることに危惧を抱いている。もし独りになったら、その時間を前向きにとらえ、自分のことを冷静にみつめる、家族と普段できない何か冒険的なことをする、好きなことに没頭するなど楽しめばいい。人とつながることはスマホの中でなく、目の前の人の表情、声の調子で相手を理解できることの方が大事。きっとそばに気にかけてくれる、寄り添ってくれる人がいるはずだ。そして、独りの時間にゆっくり本と付き合ってもらいたい。読書の役割は大きいと思う。世界は広い、歴史からも学べることが多い、人間は面白い、豊かな『人文知』が今こそ子育てに必要なだとこの頃とみに実感している。

(安室 久恵)

編集後記：

今年の中秋の名月は丁度お彼岸の頃 9 月 24 日だそうです。お月様を眺めて月見酒といきたいところですが、大雨、台風、地震と自然の猛威にはなすすべがありません。大雨、地震の怖さは身をもって経験しているはずなのに…「備え」はしっかりしなければ！

雨のご機嫌を伺いながらやっと終えた稲刈り。腰の痛みを吹き飛ばすほどの豊作だと良いのですが…。鮮度一番 232 号お届けします。どうぞ隅から隅までお読みください。(原)



編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島 2 丁目 12-12 TEL 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>